

「失敗から学ぶこと」

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校長

小幡圭二

連日の雪で、音威子府はすっかり銀世界になりました。師走になるといつも1年の早さを実感し、日々の大切さに気づきます。生徒会役員が改選され、新執行部のもとで体育祭が行われました。各学級が一致団結して戦い、今年も活気に満ちた素晴らしい大会になりました。また、寮生会役員も交代し、これからの寮生会活動が期待されます。先輩たちが築いた伝統を継承しつつ、みんなで力を合わせて新たな歴史をつくって欲しいと思います。

さて、12月10日にノーベル賞の授賞式が行われ、二人の日本人が受賞しました。その一人、医学生理学賞を受賞した大村智氏へのインタビューで「楽な道、楽な道を行くと本当のいい人生にならない」「成功した人は、人より倍も3倍も失敗している」という言葉が印象的でした。2002年に科学賞を受賞した田中耕一氏の、失敗した実験がノーベル賞に繋がったという話を思い出します。

大切なのは、失敗を怖れず挑戦する姿勢もさることながら、失敗から学んでいることなのです。世界の自動車王として知られるヘンリー・フォードは「唯一本当の失敗は、そこから何も学ばないことだ」といっています。また、メジャーリーグのイチロー選手が日米通算4000本安打を達成したとき「打席での8000回の失敗と向き合ってきたということだ」とコメントしました。「失敗は成功のもと」といいますが、失敗から学ぶことは大変多いのです。

新しい年、平成28年はすぐそこです。来年はどんな年にしたいと思っていますか。ぜひ、失敗を怖れず果敢に挑戦し、失敗から多くを学び、未来の成功に繋げて欲しいと思います。新年が、希望に満ちた輝かしい一年になるよう心から願っています。

冬休み明けの全校集会での、みなさんの爽やかな笑顔と気持ちの良い挨拶を楽しみにしています。

保護の皆様、地域の皆様には、日頃から本校教育活動にご理解とご協力をいただき大変有り難うございます。お陰を持ちまして、平成27年を無事終了することが出来ました。心から感謝いたします。

新しい年も子どもたちの成長のために教職員一同努力する所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

皆様にとって、新年が幸福に満ちた素晴らしい一年になりますよう、心からお祈りいたします。



学校だより

No.4

平成27年12月24日
発行



頭で考え、手で考え、共に考え

教務部長 川添龍一

テレビで直木賞作家の池井戸潤さん原作によるドラマ「下町ロケット」が放送されたことがきっかけに、今、町工場が注目されています。第1部ではロケットの最重要部品（バルブシステム）の開発を巡って、その製造特許を持つ町工場の佃製作所と利権を横取りしようと画策するナカシマ工業との対立、そして社長と職員や家族らの間で揺れ動く人間関係が描かれています。お話の中で町工場の職員たちは、自らの仕事は何のためなのかを見失い、技術の壁に阻まれ、仲間割れを起こします。しかし経営、営業、法律などの側面から知恵を絞り、技術の面からは理屈だけでは解決できないことに対して泥臭く取り組み、そして仲間が同じ方向を見つめ、協力し合って問題を解決させていきました。不可能なことを可能なものにしたのは、奇跡でも何でもなく、彼らでした。

私は、答えのない現状に屈せずよりよい答えを出していこうとする人たちの姿と、その人たちの思いに心を揺さぶられました。その思いを原動力に、頭・手・心、これらすべてを使い、力を合わせることで、不可能な事を可能にしていくストーリーは、痛快です。

下町ロケットが多くの人に受け入れられている理由は、話題性もあります。が、それは答えのない社会を今私たちが生きているからなのだと思います。25年ほど前までは「受験勉強に明け暮れて有名大学へ進学し、一流企業に就職すれば安泰」と、多くの人は思っていました。それは、「こうすれば間違いない」という答えがあったからです。今やその一流企業が社会のうねりに揉まれて倒産する時代です。一流大学を出たあと高学歴ニートになる人もいます。また押し寄せるグローバル化、少子高齢化、高度情報化の波が私たちの生活に直接的に大きな影響を与えるようにもなりました。現に地球の裏で起こったことが、数か月後には私たちの暮らしを大きく変えています。このような社会を生き抜くには、今ない答えを生み出していくしかありません。答えを生み出すのは、誰かではなく自分自身、今はそういう時代なのです。

作るものこそ違いますが、おと高の学びは、今ない答えをそれぞれが出していくという点で、佃製作所と同じです。工芸は何か問題を解決するための1つの方法、工芸品は1つの答えです。制作の過程には構想を練る場面、実際に手を動かして形になってくる中で考える場面、そしてともに力を合わせて制作する場面があります。皆さんは意識しているでしょうか？答えは誰かが教えてくれるものではなく、自分で考えて出していくものです。

〒098-2501

北海道中川郡音威子府村字音威子府 181 番地の 1

HP:

<http://otoineppu-ac-h.server-shared.com/>

Email:

otokoh@seagreen.ocn.ne.jp

行事予定

1月

- 13日(水) 帰寮日
- 14日(木) 全校集会
- 15日(金) 漢字検定
- 16日(土)～17日(日) 大学入試センター試験
- 22日(金) 英語検定
- 25日(月) 全国大会壮行会
- 28日(木)～29日(金) 学年末考査(3年)
- 29日(金) 三送会
- 30日(土) 帰省(3年)

2月

- 1日(月)～28日(日) 3年家庭学習期間
- 12日(金) 入学者選抜(推薦)
- 18日(木)～22日(月) 学年末考査
- 28日(日) 3年生帰寮
- 29日(月) 卒業式予行、PTA体文役員会

3月

- 1日(火) 第30回卒業証書授与式
- 3日(木) 入学者選抜(一般・学力)
- 4日(金) 入学者選抜(一般・面接)
- 16日(水) 合格発表
- 24日(木) 終了式
- 25日(金) 帰省(1・2年)

生徒指導部から

生徒指導部長 大木 民 郎

生徒諸君へ：冬休みまでの学習お疲れさまでした。すべて満足いくまで上手くできた、という人はいないでしょうね。私、大木は学生時代に数学がとてできませんでした。英語、古文、歴史についてはまったく困りませんでした。多分、中学の頃からロックンロールを歌って、歴史小説を読むのが好きだったからでしょう。人にはそれぞれ得手、不得手があり、全部が満足いかないのが当たり前です。だから、上手くいかないことがあっても落ち込まないでください。一方、世の中には数学が大得意な他人もいるものです。得意はより伸ばして、不得意はできるだけ克服して、と、通り一遍なアドバイスですが落ち込む必要はありませんので、念のため。

寮では土曜日の朝食としておにぎりの配布が始まりました。梅干しが苦手な人も、甘い菓子パンが好きという人もいるでしょう。すべてが全員の望み通りにはいかないですが、それもまた増えた選択肢の一つです。寮生会役員みんな、ご苦労さまでした。

保護者の皆さま：昨今、交通事故や未成年者を巻き込む犯罪が目立ちます。海外では、観光旅行と言ってもなかなか不穏なニュースも飛び交っているようです。生徒だけ、あるいは未成年者だけで旅行などをさせる場合には「こういう旅行をします」と学校に連絡しておく、何かの役に立つことがあるかもしれません。支障のない範囲で一報くださるよう、よろしくお願いいたします。

生徒、ご家族ともに良い新年を迎えられますよう、お祈り申し上げます。

進路指導部から

進路指導主事 福 澤 等

2015年終了時点での進路決定者は26名、決定率は72.2%となります。あとは、まだ結果が出ていない生徒を頑張らせるのみですが、1・2年生のために今年度の反省点を挙げてみます。大変失礼な発言にあたるかもしれませんが、率直な意見です。

- ①自分で進路活動を進められない生徒が見られた。
- ②直前で（または直前まで）迷う生徒が多かった。
- ③保護者の意見に左右・翻弄される生徒が多かった。

すべて生徒や保護者が悪いと申し上げているわけではありません。教員の至らなさも痛感しておりますが、この反省を受けて、まずは1・2年生にお願いします。

- ①授業や日常生活・進路活動において、自分のことは自分でやる習慣をつけましょう。特に進学希望者は、お金がいくら掛かるか自分で調べましょう。
- ②就職・進学いずれにしても『目的』を持ち、実現のために何が必要か考えましょう。
- ③自分の人生について、保護者に希望を伝え、家庭の状況との擦り合せをしましょう。

続いて保護者の皆様にもお願いします。

- ①お子様は、まもなく社会に出ようとしています。自立を促進するため、過保護・過干渉にならないよう、ご配慮をお願いします。
- ②お子様の希望をしっかり受け止めるとともに、保護者の希望・ご家庭の経済状況等を明確に伝えてください。できることとできないことを具体的にした上で、お子様自身に最終的な決断をさせてください。

学生美術全道展



10月3日～4日、札幌で行われた学生美術全道展に参加しました。

スウェーデン生徒受け入



10月18日～25日、国際理解教育において、スウェーデン・レクサンド高校の生徒を受け入れ交流を行いました。

高文連全道大会



10月14日～16日、札幌コンベンションセンターで行われた高文連全道大会に参加しました。

クロスカントリースキー部、功績表彰



11月3日、第64回全国高等学校スキー大会にて総合優勝を果たしたクロスカントリースキー部に音威子府村スポーツ賞が贈られました。

《お知らせ》

平成27年度 本校におけるいじめ等の状況について

本年度も年間2回のアンケートを終え、また、日ごろの生徒状況も合わせて、いじめの発生は認知されませんでした。

最近では、インターネットを通じたいじめなど、本人が気付いていない中で誹謗中傷が行われ、当該生徒が心身の苦痛を感じるに至っている場合もあります。このような事が起きないように、生徒への啓発と見守りを重ねて、いじめのない学校づくりに努力していきます。